

② 第2委員会

「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」



それでは、第2委員会の意見を発表します。

わたしたち第2委員会のテーマは、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」です。このテーマについて考えるため、わたしたちは7月20日に動物愛護センターの施設見学を行いました。そこでわたしたちは、管理棟にいる犬やねこ、そして、その犬やねこを殺処分するための機械を見て、「病気になったからもう要らない」や「マンションに引っこして飼えなくなったから」といった飼い主である人間の勝手な理由で捨てられ、その結果、犬やねこの大切な命がそまつにされていることを知り、とても悲しい気持ちになりました。

また、愛護センターにいる犬たちにさわらせてもらい、とてもかわいくて、自分の中に思いやりの気持ちが芽生えるのを感じました。そして、どうしたら殺処分される犬たちやねこを少しでも減らせるのかを真げんに考えなければいけないと思いました。

その後、わたしたちは、施設見学をして感じたことや考えたことをもとにして、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」のために何をすればいいのかを考えました。

それでは、わたしたちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員 ぼくは今回、動物愛護センター^{あいご}に行き、1年でこんなにたくさんの命が人の身勝手に^な亡くなることを初めて知りました。きっとほかにもこの事実を知らない人は多いと思います。だからこそ、この事実をもっと多くの人に知ってもらい、人と動物の共生を広めていくべきだと思いました。

毎日ぼくらは当たり前のように暮らしているけど、犬やねこでも一つの命なので、人はもっと命の大切さと向き合うべきだし、現実^{げんじつ}をいろんな人に知ってもらい、一日でも早くこの亡くなる命^ながゼロになる日を願いたいです。

○子ども議員 「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」とは、一人一人がいつも笑顔でいられる環境^{かんきょう}、そして名古屋市のことを好きになることが大切だと思います。

簡単に^{かんたん}暴言^{ぼうげん}をはくと、関係がくずれたり、後で後悔^{こうかい}すると思います。そのために、相手のいいところを見つけたり、協力することで、どちらも笑顔になれ、よりより関係に結びつくと思います。

世の中には、生きてくても生きられない人が命をうばわれることがあります。わたしたちにできることは、その人たちの分も生きることです。自分の命を大切にすると、将来^{しょうらい}、新たな命が生まれます。そのためにも、命を大切にし、長生きすることが大切です。命を大切にす人がふえると、思いやりのあるすてきなまちになると思います。

○子ども議員 わたしたちは、先日、動物愛護^{あいご}センターに行かせていただいて、殺処分^{さつしよぶん}される犬やねこの数を聞いておどろきました。そこで、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」は、より一層^{いっそう}大切なことだと思いました。

それと、思いやりのあるまちづくりをするには、地域^{ちいき}のみなさんとの協力もなければできないことです。だから、わたしたちは少しずつでも長く時間をかけながらも思いやりのあるまちづくりに取り組んでいきます。

○子ども議員 わたしたちは、動物愛護^{あいご}センターで見学したこと、気づいたことや経験^{けいけん}したことの思いを発表し合いました。そこでわたしは、目の前で困^{こま}っているのにどうして助けられないのかという思いが強まりました。

今、東日本大震災^{だいしんさい}によって、たくさんの方が苦しみ、助けを求めています。動物たちも同じです。人のように話すことはできずとも、犬やねこ自身がぎせいをはらい、助けを求めています。なら、わたしたちは、そんなぎせいまではらってくれた方々に何ができるかという思いを改めて深く考えるようになりました。



○子ども議員 わたしは、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」にするには、人間だけではなく、動物も一つの命としてあつかわなければいけないと、動物愛護^{あいご}センターで学びました。

また、どうすれば人間だけの都合で命を失ってしまうことを防^{ふせ}げるのかも考えました。そのためには、動物を飼^かう前に、どれだけ大変なことかや最後まで飼^かえるかなどをよく考えることが大切だとわたしは思います。

そして、思いやりとは、一人一人がまちの人に対して笑顔でいれば、自然と起こると思います。なぜなら、いつも笑顔でいれば、きっと周りも優^{やさ}しくしてくれたり、おたがいに親しくなったりできるので、困^{こま}ったときは助け合うこともできるからです。

○子ども議員 ぼくは、名古屋が笑顔あふれるまちにするためには、命を大切にし、思いやりのあるまちづくりが必要だと思いました。

ぼくは、小学校に小さい子と遊ぶ場所をつくりたいと思います。そして、小学校や地^ち域^{いき}の人がふれ合ったり遊んだりしていくうちに、自然に小さな子思いの気持ちが生まれると思います。すると、だんだんほかの人のことを思いやれる人がふえるのではないかと思います。

また、地^ち域^{いき}の人ときずなが深まると思いました。

○子ども議員 わたしは、動物愛護センターを通して、命の大切さを知りました。人と動物とがわかり合えるまちにするためには、一人一人が生きていることのとうとさを知り、命を大切にすることで、思いやりのあるまちになると思います。

自分だけでなく、人のことも考え、助け合える名古屋市にしたいです。そのためには、地域での呼びかけとそれぞれの役割が大切だと思います。例えば、チラシを回覧したり、動物と人とが仲よくできる場を設けるといいと思います。

○子ども議員 わたしが一番強く思ったことは、なぜ人間は自分勝手に動物の命を捨ててしまうのかということです。動物だって命はあるのに、人間の勝手に動物を捨てるのはひどいと思ったからです。そこで、わたしは、どうしたら人間が自分勝手に動物を捨てなくなるのか考えました。

わたしが考えたことは、法律をもっと厳しくするということです。また、この法律をたくさんの人に知ってもらおうということです。わたしは、これから命の大切さをよく学び、たくさんの人や動物の命を守れたらよいと思います。

○子ども議員 わたしは、第2委員会になって、動物愛護センターに行きました。人間の勝手な理由で、動物が捨てられて、殺処分されるなんて、かわいそうだと思います。

そのようにならないためには、ポスターなどをつくるといいと思います。動物を飼うときには、自分の暮らしている場所がちゃんと飼える環境なのかを確かめて飼いはじめることが大事だと思います。

そして、動物や人が幸せに暮らすために、名古屋が大好きな笑顔あふれるまちにしたいです。自分のことだけでなく、人のための思いやりを持って、地域の人や身近な人たちと接していきたいです。名古屋に住む動物や人が幸せに笑顔で暮らせるように、わたしも努力していきたいです。

○子ども議員 わたしは、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」を進めるためには、今まで考えたことのない意見と情報を広げる速さが必要だと考えました。

わたしたちは、動物愛護センターへ行って、人間の勝手な行動や家の都合などで捨てられてしまう犬やねこを見物してきました。このように人間の勝手な行動に、今まで考えたことのない意見が必要になるのです。

わたしは、動物愛護センターで毎年どれぐらいの数の犬やねこが殺されているかという現状をもっと多くの人知れば、勝手な人が減ると考えます。そこで、名古屋市内の小学生全員が6年間に一回は校外学習か遠足で愛護センターを訪問し、現状を見て、そして見てきたことを家族や周りの人に伝えるということを提案します。

○子ども議員 わたしは、動物愛護センターへ行き、当たり前のように犬やねこが捨てられていて、たくさん殺処分されていることがわかりました。

犬もねこも人間と同じように生きているとうとい命なのです。おもちゃなどではないのです。わたしは犬を飼っています。育てるのは大変ですが、一緒にいると、家族を明るくしてくれたり、優しい気持ちにさせてくれます。犬にとって、家族に捨てられるということは、非常にショックなことだと思います。自分の住んでいるところではペットを飼ってもいいのか、最後まで責任を持って飼うことができるのかを考えなければいけません。わたしは、小さな命を大切にしていくなを持つことで、名古屋市を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にすることができると思いました。

わたしたち第2委員会は、このようなことが「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」のために必要だと考えました。

これで、第2委員会の発表を終わります。

なりたざいせいふくし

■ 成田財政福祉委員長の答弁

第2委員会のみなさん、おつかれさまでした。4日間、一生懸命になって頑張っていました。本当に立派な最後の発表、礼に始まり、礼に終わり、本当にすばらしい姿を見させていただきました。

わたしたちは、みなさんの議論の結果、動物愛護センターに見学に行き、そしてテーマである「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」、



これを考えていくと。きょう、立派りっぱに質問しつもん、そして発表をいただきました。さまざまな形で動物愛護あいごセンターの動物たちを目の当たりにして、犬やねこ、現状げんじょうを、その先の命の行方、そういったものをそれぞれの視し点てんで見みて、考えていただいたと思います。

殺処分さつしよぶん、大変重たい聞きなれない言葉かなと思ひまして、みなさんがどんな発想をされるかとわたしも大変不安ではありましたが、複雑ふくざつな気持ちにかられた中で、真剣しんけんにみなさんがこのテーマそに沿った意見を出されたことは、多分相手や自分に置きかえて考えることができたあらわれじゃないかなと思います。

わたしが考える命を大切にし、そして思いやりのあるまち、これは多分、自分とはちがう人がいる、そのことを当たり前あたりまえにみなさんが考えられる、思える社会ではないかなと思います。

もう一度言います。自分とはちがう人がいることを当たり前あたりまえにみなさんが思える社会ではないかなと思います。

命の大切さはみな同じ。でも、その姿すがたや形がちがいます。体の大きな人、小さい人、頭がいい人、スポーツができる人、できない人。動物も人間もそれぞれちがいますし、人間にも男性だんせいも女性じよせいもいます。でも、そのだれもが同じ大切な命を持っています。

みなさんの議論ぎろんの中では、犬やねこは言葉が話せないけど、本当は長生きしたいし、幸せしあわせに暮らしたいと思っているから、何とかしてあげたいと言われていました。まさに、これがみなさんの思いやりの気持ちですし、すでにそれを持っている証拠しょうこではないでしょうか。

ただし、気持ちだけでは解決かいけつできないこともございます。ぜひこれをこれからご自宅じたくに帰って、また学校に行ったときに考えてみてはいかがでしょうか。例えば、今よく問題もんたいになっていきますいじめや虐待ぎゃくたい、なかなか思いなやんで命いのちを絶たってしまう。そういった人たちを一人でもみなさんの手で救すくってあげることにはできないのか。障害しょうがいを持っている方、お年をめして、そして、なかなか体が不自由で生活が不自由にされている方

や施設しせつが使いにくい方、そういった方をどうしたら助けていけるのか。命を大切に、思いやりのあるまちづくりをしていくために、ぜひともこの子ども議会の経験けいけんをもとに、もっとほり下げて具体的にぜひ続けて考えていただきたいと思います。

最後に、子ども議会に選ばれた75人のみなさん、そして何よりもこの場に来ていない選ばれなかった方々もいるということをぜひわかってほしいと思います。みなさんが代表選手であるからには、この貴重な経験けんをおだにすることなく、自分だけのものにせず、お友達と家族のみなさんと考えてお話しする機会を持ってくださると、わたしたちもうれしいし、ぜひ続けてほしいと思います。

このたびこうしてみなさんとともに考え、過すごさせていただいたことを心から感謝かんしゃと敬意けいを持ってお礼を申し上げたいと思います。

とみぐち、沢田さわだ両副委員長、そして指導しどう主事ひこさかの彦坂、さらには事務局じむきょくの担当たんとうしや者を代表して、わたし、成田がお礼を申し上げます。第2委員会のみなさん、4日間ありがとうございました。またよろしく願います。

